



JSQC ニュース

No.331

発行 一般社団法人 日本品質管理学会
 東京都杉並区高円寺南1-2-1 日本科学技術連盟東高円寺ビル内
 電話.03 (5378) 1506 FAX.03 (5378) 1507
 ホームページ:www.jsqc.org/

CONTENTS

- 1-トピックス 日本規格協会本部移転と思い出
- 2-私の提言 がんばろう!「ニッポン」
- 2-ルポルタージュ 第115回講演会ルポ
- 3-第43年度 品質管理推進功労賞推薦のお願い/10月の入会者紹介
- 4-行事案内/JSQCニュース電子化のお知らせ/事務局からのお知らせ

日本規格協会本部移転と思い出

明治大学 名誉教授 大滝 厚

2013年12月、地下鉄銀座線・丸ノ内線赤坂見附駅から5分ほどの赤坂牛鳴坂にあった日本規格協会（JSA）がJR田町駅、都営地下鉄浅草線・三田線三田駅、同泉岳寺駅から8分弱の京浜第1国道に面した港区三田3丁目にある三田MTビルへ移転した。

JSA本部は、設立当初の1945年12月には、東京都麹町区三年町（現千代田区霞が関、永田町界限）の特許標準局内にあり、1952年8月に工業技術院庁舎内（中央区銀座東7丁目）、その後1954年10月に木挽館ビル（中央区銀座東6丁目）と移転を繰り返して、ようやく1962年5月に赤坂の本部ビルが竣工し本拠を構えた。以来51年ぶり4回目の移転となる。旧本部ビルは、青山通りから一歩入った都心の便の良い所であったが、跡地は周辺地域と共に整備して大学が進出する計画とのことである。



牛鳴坂と旧JSA本部ビル

私が赤坂の本部ビルに通った最初は、大学を卒業して社会人となった2年目の1965年で、東京オリンピックが成功裏に終わった翌年である。当時の勤務先はJIS表示許可工場であり、通産局長表彰の候補事業所となっていて、標準化と品質管理に熱心に取り組んでいた。私は、就職先を決めるにあたって品質管理をやりたいと思って入社したので配属先が管理部品質管理課であった。そのため審査準備の手伝いをしながら「標準化と品質管理」講習会の夜間コースへ派遣された。印象に残るのは故朝香鐵一先生の歯切れのよい講義である。その後大学院へ進学し、修了と同時に明治大学の助手として採用された。多分、1970年代の半ばごろと記憶しているが、今度は縁あって「標準化と品質管理」講習会の講師となり統計的方法を中心に講義を担当するようになった。そして大学在職中の最後には、現JISマーク表示制度に関わる一般認証指針JIS Q 1001の分科会主査を拝命した。まさに規格協会との関係は「JISに始まりJISに終わる」お付き合いである。

さて新本部であるが、1階入口にJSAライブラリー、その奥に



移転後の三田MTビル（JSA本部）

講義室、会議室などがある。本部機能は、9-11階のオフィスに集中し、効率的な業務遂行とマネジメントが期待できる。

ところで、本部のある三田MTビルに面した京浜第1国道は旧東海道でもあり歴史探訪という面で魅力的である。田町駅から徒歩で協会へ向かう途中にある「札の辻」（高札場）歩道橋からは東京タワーの美しい姿を見ることができる。ビル斜め前には由緒ある御田八幡がある。さらに行くくと高輪の大木戸跡、赤穂義士四十七士の眠る泉岳寺へと続く。また田町駅から逆方向の浜松町駅方面へ歩くと三菱自動車工業・本社前に西郷・勝の江戸城無血開城会見の碑がある。協会で用を済ませたらこの辺りを散策するのもよい。

● 私の提言 ● がんばろう！「ニッポン」

トヨタ車体(株) 八重口 敏行



ソチ冬季オリンピックが開幕した（執筆時点）。私も「オリンピック好きの日本人」の一人として、熱い気持ちで毎日の競技を見つめている。オリンピックが「国威発揚の場」であるか、「メダルの数は国力の表れ」といえるかどうかは様々な意見があると思うが、「国」を意識する場であることは間違いないであろう。

今日、企業活動はボーダーレスになり、経済はグローバルに連動するなど、「国」というものの意識が弱まってきていると感じるが、一方で、モノ

づくり企業として「国内事業」について考える機会が増えてきていることも事実である。

すなわち、「地産地消」の考え方も含め、巷間言われる「グローバル経営」では、どこに本社、開発拠点、生産拠点を置くか、どこの国の人を雇うかは経済合理性で判断ということになり、勢い、国内事業は縮小されていく傾向にある。厳しい国際競争に打ち勝つにはこの考え方もやむを得ないと思うが、日本という国に生まれ育ち、企業としても日本で成長できてきたという経緯を踏まえると、本当にその流れにのるだけで良いのかという思いを強く感じている。

もちろん、経営に甘さは禁物でノスタルジーに浸っている状況にはなく、

「ニッポン」に事業拠点があっても世界の競争に勝てるようにすることが命題となる。つまり、「ニッポン」の強みを活用し国内でやるべきことを徹底的に研ぎ澄ますことが必要になる。

日本の強みには幅広い産業の基礎技術が集積されていることがあり、日本人の強みには勤勉、旺盛な学習意欲、チームワークといったことがあげられると思うが、それらをベースにした「品質管理」も強みの一つであると思う。少なくとも日本の工業製品が先進国市場を席卷した理由の一つが日本製品の品質の高さであったことは間違いないであろう。その意味で、日本でのモノづくりをより競争力のあるものにするのに「品質」は欠くことのできない要素であると私は確信している。

残念ながら昨今、日本製品の品質問題が散見されたり、アジアの現地資本の工場の方が愚直に日常管理している様を見聞きするが、「品質」の強さを取り戻し、さらに研ぎ澄ますべく企業人として、品質管理学会の理事の一人として尽力したいと思っている。

第115回 講演会 ルポ

企業経営における 見える化

『そんなことが起きているとは知らなかった/そういうことは想定外だった』などの言い訳のニュースなどが目につく中で、期せずして見える化に関する著書が2冊出版された。平成25年12月16日(月)、出版に関わられた著者をお招きした本学会主催の第115回講演会が、52人の参加者を得て開催された。

「見える化があなたの会社を変える」の編著者である広島工業大学 名誉教授 久保田洋志氏は、経営環境は必ず変化し不確定で厳しいもの。企業は活動の集合体であり、特に第一線の人々は、“ちょっと変だな”を感じとるセンサー機能が働き、変化に柔軟に対処することが重要となることを強調された。不具合・異常発生の源泉は、変更点・変化点にある場合が多いが、多くの企業は“変更点管理”はやっているが“変化点管理”がうまく出来ていないとも言われ、“見える化”は3つの変化をもたら

すことをまとめとしてお話しされた。

- ① “見える化”によって価値と事実が共有され、コミュニケーションが良くなり、“影響の連鎖”が起り、個人の意識と行動が変わり;自律性が高まる
 - ② ひとり一人が変わると相互補完的な共働が促進され、互いに認める職場に変わり;職場が活性化する
 - ③ 職場が変わると部門横断的共働が活性化し、統合的組織能力と環境対応性を高める;企業の進化を確実にする
- 「再発防止・未然防止の見える化」の著者である福丸マネジメントテクノ 代表取締役 福丸典芳氏からは、再発防止では、分析能力が弱いために事象と原因の考え方を間違え、原因の追究が弱くなっている例が多い。未然防止では未然防止そのものの意味の理解が出来ていないことが根底にあり、活動のどのようなことが未然防止に該当するのかという認識に至らない。誰もが未然防止のプロセスを確認出来る見える化の工夫が必要であるとして、著書には7ステップの手順に加えて「見える化シート」も紹介されている。

講演会に参加できなかった方々は、2冊の書籍を手にとりいただき、職場の品質向上活動に生かしていただきたい。
(肥後 勇)

第43年度 品質管理推進功労賞： 学会員の皆様 候補者の推薦をお願いいたします！

日本品質管理学会品質管理推進功労賞は、品質管理推進に尽力されている多くの方々に活力を与え、品質管理の発展がより加速され、ひいては産業界の発展に寄与できることを願って創設されました。本年度は第14回となり、次の要領で実施いたしますので、奮ってご推薦の程お願いします。但し、推薦にあたっては次の点にご配慮ください。

- 1) 本賞選考の推薦は全てEメールにてお願いします。
- 2) 推薦に際しては、予め被推薦者の了解を得て、被推薦者本人の確認を受けた書類を送付してください。

記

本賞の授賞資格（品質管理推進功労賞内規）：

以下のいずれかの条件を満たす会員とする。

- 1) 企業・各種団体（以下、組織という。）に所属し、所属組織の品質管理の実践と推進に多大な貢献をした、もしくは、していると認められる者。
- 2) 組織に所属し、本会に対する多大な貢献があった、もしくはある者。
- 3) 組織に所属し、品質管理に対する造詣が深い者。
- 4) 本会の役員2名以上の推薦があった者。

本年度選考方針：

- a. 本年度は、既に本来の所属企業を退職している人も対象として含めるものとし、表彰対象者数は、6名以内とする。
- b. 地域・社会への貢献を重視する。
- c. 本賞対象者の推薦に際しては、55～65歳位を目安とし、70歳以上ならびに50歳以下は避ける。
- d. 本来の所属企業で取締役になった人は避ける（理事、執行役員は対象とする）。但し、子会社等へ出向し役員になった方は候補者に含めて差し支えないものとする。
- e. 女性に対する配慮を積極的に行う。
- f. 43年度のJSQC理事は、今年度の推薦対象者から外す。

評価項目：

本賞の候補者に対して、主に次の観点から評価を行う。

【A】所属組織への貢献

- a 1 TQC/TQM/標準化/QCサークル活動等の推進
- a 2 品質管理に関する表彰・認証等の受審支援
- a 3 品質保証体制の確立
- a 4 その他特筆すべき活動

【B】地域・社会への貢献

- b 1 日本品質管理学会の発展
- b 2 デミング賞委員会/品質月間/関連学会等の活動を通じた品質管理の普及・発展
- b 3 標準化推進を通じた品質管理の普及・発展
- b 4 QCサークル活動の普及・発展
- b 5 日科技連/規格協会等の関係諸団体への協力を通じた品質管理の普及・発展
- b 6 品質管理に関する国際協力
- b 7 品質管理への深い造詣に基づく著作等の活動を通じた品質管理の普及・発展
- b 8 その他特筆すべき活動

推薦必要書類：

推薦書（様式219-1）、業績リスト（様式219-2）、上司等の推薦書（様式219-3、ここで上司等とは、元・上司、現・関連部門長を含むものとする。）

様式については、下記Webページよりダウンロードしてください。

URL：http://www.jsqc.org/ja/kiroku_houkoku/jushou.html
業績リスト（様式219-2）の業績については、上記の評価項目に対応した記述にしてください。

推薦締切：2014年6月30日(月)

メール送付先：2014kourou@jsqc.org

選考：日本品質管理学会 品質管理推進功労賞選考委員会が行う

発表：9月に開催される本学会理事会での承認後、本人ならびに推薦者に通知

表彰：2014年11月29日(土)

本学会 年次大会 授賞式

連絡先：日本品質管理学会事務局

参考：http://www.jsqc.org/ja/kiroku_houkoku/jushou/kouroushou.html

2013年10月の入会者紹介

2013年10月25日の理事会において、下記の通り正会員11名、職域会員1名、賛助会員1社1口の入会が承認されました。

（正会員11名）○目黒 かな女（DOWA セミコンダクター秋田）○谷田 広己（ソミック石川）○結城 隆之（ローム）

○床波 大貴（富士ゼロックス）○江崎和博（法政大学）○佐々木 国雄（並木精密宝石）○穴倉 嘉憲・藤崎 和弘（NECフィールディング）○中島 和也（サンデン）○小泉 光彦（日本飛行機）○船見 晃啓・宮川 哲也（竹中工務店）○廣田 憲司・田辺 祥士（豊田自動織機）

（職域会員1名）○井上 佳昭（ニイタ

力）

（賛助会員1社1口）○京三製作所

正会員：2228名

準会員：81名

職域会員：13名

賛助会員：160社209口

公共会員：20口

行事案内

●第87回クオリティトーク (本部)

テーマ：信頼性・安全性の確保と未然防止
 ー製品・医療・食品を中心にー
 ゲスト：鈴木和幸氏 (電気通信大学)
 日時：2014年4月14日(月)18:00~20:30
 会場：日本科学技術連盟
 東高円寺ビル5階研修室
 定員：30名
 参加費：会員3,000円 非会員4,000円
 準会員・一般学生2,000円
 (含軽食・当日払い)
 詳細：ホームページをご覧ください。
 申込方法：本部事務局宛E-mailまたはFAX
 にてお申し込みください。

●第119回講演会 (中部)

日時：2014年5月19日(月)13:00~17:00
 会場：愛知県産業労働センター
 (ウインクあいち) 小ホール2

プログラム：

講演①：「イプシロンロケット開発
 における安全・信頼性・品質管理」(仮題)
 清水文男氏 (JAXA)
 講演②：「感情経験をもたらす製品・
 サービスと経営」(仮題)
 梅室博行氏 (東京工業大学)
 参加費：会 員 4,000円 (締切後 4,500円)
 非会員 8,000円 (締切後 8,500円)
 準会員2,000円一般学生3,000円
 申込方法：中部支部事務局までE-mailまた
 はFAXにてお申し込みください。

●第88回クオリティトーク (本部)

テーマ：現場力を高める実践的TPM
 (仮題)
 ゲスト：町田勝利氏 (元 コニカ)
 日時：2014年5月21日(水)18:00~20:30

会場：日本科学技術連盟
 東高円寺ビル5階研修室
 定員：30名
 参加費：会員3,000円 非会員4,000円
 準会員・一般学生2,000円
 (含軽食・当日払い)
 詳細：ホームページをご覧ください。
 申込方法：本部事務局宛E-mailまたはFAX
 にてお申し込みください。

●第104回研究発表会 (本部)

日時：2014年5月31日(土)10:00~
 6月1日(日)10:00~
 会場：日本科学技術連盟
 東高円寺ビル
 プログラム：(予定)
 ・5月31日(土)
 10:05~11:05
 チュートリアルセッションA
 「アンスコムの数値例で学ぶ統
 計的方法」(仮題)
 廣野元久氏 (リコー)
 11:10~12:10
 チュートリアルセッションB
 「(株)アドヴィックスの経営革新を
 支えたTQM活動」
 酒井和憲氏 (アドヴィックス)
 13:10~13:30 ポスターセッション
 13:30~17:50 研究発表会
 18:00~19:30 懇親会
 ・6月1日(日)
 10:00~16:00 研究発表会
 参加費：

チュートリアルセッション・研究発表会
 会 員 6,000円 (締切後 6,500円)
 非会員12,000円 (締切後12,500円)
 準会員 3,000円・一般学生4,000円
 研究発表会のみ (1日参加/2日参加とも)
 会 員 4,000円 (締切後 4,500円)
 非会員 8,000円 (締切後 8,500円)
 準会員 2,000円・一般学生3,000円
 懇親会
 会 員・非会員 4,000円
 準会員・一般学生 2,000円

申込締切：2014年5月21日(水)
 申込方法：同封の参加申込書にご記入の上、
 本部事務局までお申し込みください。
 ホームページからも申し込みできます。
<http://www.jsqc.org/q/news/events-list.html>

行事申込先

JSQCホームページ：www.jsqc.org/

本部：TEL 03-5378-1506

FAX 03-5378-1507

E-mail: apply@jsqc.org

中部支部：TEL 052-221-8318

FAX 052-203-4806

E-mail: nagoya51@jsa.or.jp

JSQCニュース電子化のお知らせ

かねてよりお知らせいたしましたとおり、JSQCニュースは原則としてPDFファイルによる電子配布に切り替えることになりました。

印刷したJSQCニュースの発行は、本号をもって終了いたします。

2014年5月発行のNo.332以降は、学会Webページからダウンロードしていただくこととなります。Web掲載後にメールニュースにてお知らせいたしますので、まだメールアドレスを登録されていない方は是非ご登録ください。変更届は下記webページの下方にあります。

<http://www.jsqc.org/ja/oshirase/moushikomi.html>

Web上のJSQCニュースは以下の手順でご覧になれます。

- トップページ左側中ほどの「定期行物 論文・記事募集ー・JSQCニュース」→「ニュースを読む」をクリック→最新号の文字列をクリック
- トップページ右側上部の「■研究成果ー・JSQCニュースの記事」→右側の>>>部分をクリック→最新号の文字列をクリック

事務局からのお知らせ

「QMS有効活用及び審査研究部会 WG7 第4期研究報告書」頒布のお知らせ

この度、標記の成果が本学会の研究成果としてまとめられましたので、ご希望の会員の方に実費で頒布いたします。

1. 申込方法：E-mailまたはFAXにて資料名、部数、会員番号、氏名、所属、送付先住所、電話番号をご連絡の上お申し込みください。

申 込 先：本部事務局 E-mail apply@jsqc.org FAX 03-5378-1507

1. 資 料 代：1冊 (A4判116頁) 会員1,700円 (税込み) 非会員2,500円 (税込み)、QMS部会員は1冊目に限り1,000円。
 送 料：(冊子小包) 1冊290円、(メール便) 1冊160円、他多数の場合、事務局までご連絡ください。申し込みと同時に下記宛お振り込みください。

振込み先：一般社団法人 日本品質管理学会 フリガナ:シャ)ニホンヒンシツカンリガクカイ
 三菱東京UFJ銀行 渋谷支店 普通預金 4 3 1 3 8 2 0

資料は入金を確認の上、郵送いたします。